

REBOXメンブレン劣化に伴う誤動作について

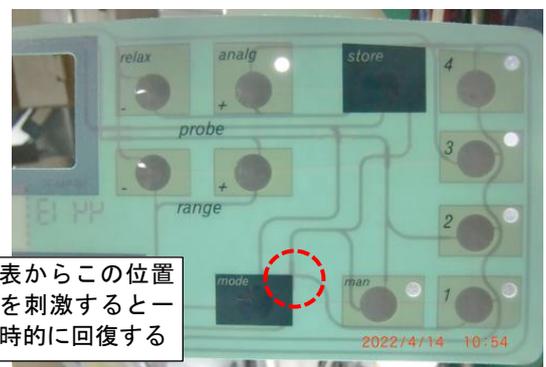
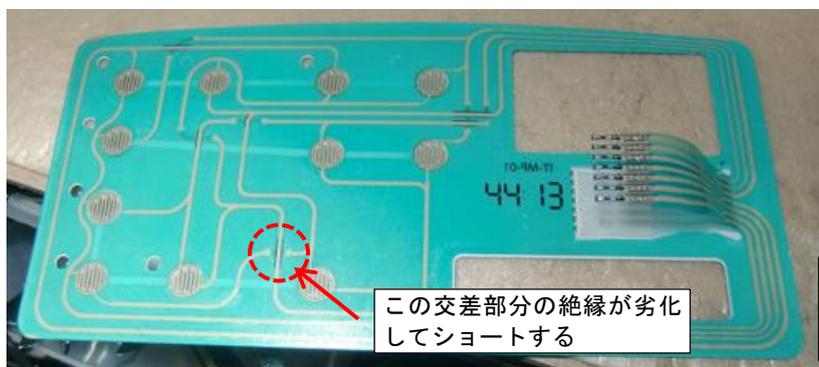
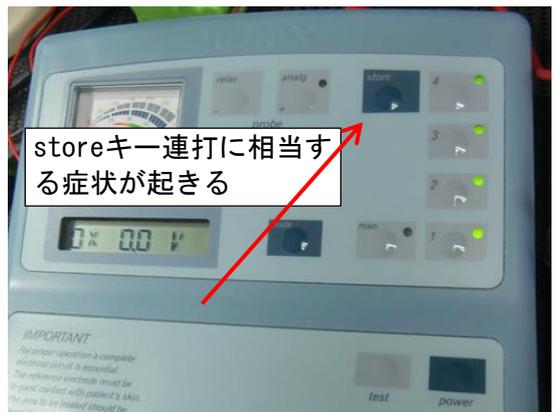
レボックスのキーボード(以下メンブレン)は、配線が劣化してショートするため、キーが押せなくなったり、勝手に押されたりする症状が発生します。

劣化しやすいのは store キーです。触れていなくてもごく稀に押される症状が起きた場合、レボックスはどのキーでも電源が入る仕様なので、電池が入っている限り、勝手に電源が入ります。さらに store キーは LED とブザーの確認用でもあるため、電源オフの状態から勝手に電源が入り、ブザーと LED 点滅が何度か繰り返されます。15 分後にオートパワーオフが作動し、ブザーが 2 度鳴ります。

Amplitude ホイールを回しておく事で、勝手に電源オンになっても動作を始めないため、音が鳴る事はなくなりますが、LED は光る場合がありますし、電池もそれなりに消耗します。

施術中に store キーを押しても、ただちに出力に影響は出ないため、症状が軽微なうちは使い続ける事はできますが、症状が進んで store キーが押しっぱなしのまま固定されると、電源オフを含めた全ての操作が効かなくなります。

原因は下記の配線の交差部分のショートですから、例えばガムテープをこの部分に押し当てて何度か引っ張るだけでも症状が無くなる事があります。メンブレンを一度剥がすだけでも状態が変わる場合がありますが、これはいずれかのボタンが壊れて押せなくなるリスクもあります。



原因がわからないと、基板が壊れてデタラメな動作をしているように見えますが、実際にはボタンである事がほとんどです。レボックスは同時押しの操作が多いため、予期せぬ操作が起こりがちです。

【選択①】そのまま使って様子を見る

特定のボタンが勝手に押される程度なら放置しても機器が壊れるリスクは低いと考えられます。操作に支障がないと判断できる場合、メンブレン交換は先送りする事もできます。弊社へ修理に送られた場合は、診断の費用で最低限 3,000 ~ 8,000 円程度の見積書が発行されます。メンブレンの在庫数は限られているため、修理期間を終えた製品は修理をお断りする事があります。

【選択②】メンブレンを新品交換する

症状は次第に悪化して特定のボタンが押しっぱなしになり、操作不能に陥ります。この場合はメンブレンを交換する必要があります。上と下に分かれています。ボタンとメンブレン配線の関係は複雑なため、回路の抵抗値を計測するまで、どちらか片方、または両方交換すべきか判断できません。部品代と交換作業で 2~3 万円程度の修理代がかかります。